

学校概要

創立 29 周年	学校長 副島 江理子	副校長 山下 謙一郎	学期 2 学期制	児童・生徒数 382 人
学級数 一般級: 12 個別支援級: 2		主な関係校: 緑園西小学校 岡津中学校 名瀬中学校		

学校教育目標

「よりよい自分 よりよい仲間」

- (知) 自分の思いをもち、自分の力で積極的に学び続ける子を育てます。
- (徳) 規範意識をもち、自分も相手も大切に、自信と思いやりのあふれる子を育てます。
- (体) 生命を尊ぶ気持ちをもち、自らの健やかな体をつくる子を育てます。
- (公) 学校や地域に親しみ、まちの一員として積極的にかかわる子を育てます。
- (開) 様々な人とのコミュニケーションを通じて、広い視野をもち、世界とつながろうとする子を育てます。

学校の特徴

本校の子どもたちは市の学習状況調査を見ると学力層A群が多い反面、D群も一定数存在し、学力の二極化が見られます。また、学力が高くても意欲や自己肯定感が低い傾向が見られます。子ども一人ひとりが自分の思いをもち、相手の思いも尊重しながら、様々な場で豊かに伝え合い、実際に行動していくことができれば、自己肯定感や有用感ももてるようになり、自分をよりよく高めていく力が育つと考えます。また、一人ひとりの学習状況に合った学習支援が行われることで学習に対する意欲と安心感も生まれると考えます。そのためには本校の児童の実態に合った学習や生活の在り方を学校として追求し、全職員が指導の工夫・指導力向上をめざし、協働して子どもたちを育てていきます。また、地域の方々の教育力を活かすことにより、地域との関わりが増し地域に関わろうとする気持ちを育成します。

学校経営中期取組目標

「三つのつながり」 「授業」のつながり 「人」のつながり 「学びの場」のつながり

- (1) 子ども一人ひとりが安心して、自分らしさを発揮し、互いを認め合う学校をつくります。
- (2) 子どもの主体性を引き出し、自分で学習や生活をつくり高めていく子を育てます。
- (3) 教職員の指導力を高め、チームとして子どもたちを育てます。
- (4) 学校運営協議会を基盤として、学校・保護者・地域が連携し、信頼関係に基づいた開かれた学校をつくります。

小中一貫教育の取組

a5 ブロック : 岡津中学校

9年間で育てる子ども像

様々な人とのコミュニケーションを大切にしながら、自分らしさを発揮し、地域の中で心豊かに生きる児童・生徒を育てます。

自校の具体的取組

・子どもたちが安心して中学校に進学できるよう、小中合同授業研究会、児童中学校訪問、部活動体験、生徒会小学校訪問、6年担任との情報交換を実施します。  
・「緑園義務教育学校」設立に向けて、この地域の子どもたちにとどのような力を身に付けるかを地域、関係校と共有し、共同で教育課程の編成に向けて研究を進めます。

重点取組分野

取組目標

具体的取組

確かな学力

・子どもたちの主体的・協動的な学習を追究し、学習意欲・思考力を育てます。  
・どの学力層にも応じた指導の在り方を考えます。

①学状調査等の児童の経年データをもとにどの学力層にも応じた指導の手立てを講じる。  
②メディアリテラシーの向上、学びのプロセスを明確にした学習による読解力・資料活用能力の育成を図る。  
③英語と教科の統合(CLIL)の単元構想を図り、主体的に取り組む学習課題の設定を工夫する。  
④思考操作等に重点を置き、協働思考による練り上げ、まとめを重視する。

担当

B部会

豊かな心

・子どもたちの主体的な活動を通して自律・自立を促し自尊感情を高めます。  
・自分も相手も大切に心を育む取組を進め、互いを尊重する子どもを育てます。

①「けがのプロジェクト」「なかよし活動」を核にした活動を通して、子ども主体のよりよい生活づくり(相手の気持ちを尊重する)を進める。  
②地域や社会と関わる機会を増やし体験を通して多様な人々への共感を育む。  
③ypやいじめアンケートに基づき、個々の課題の早期発見とチームによる対応を心がける。  
④児童の本音を引き出し、自分事として考える道徳授業を推進する。

担当

A部会

健やかな体

・児童自身による健康的な生活に向けての取組を進め、児童の問題意識をもとに活動の充実を図ります。

①体力向上をめざし、児童自身の問題意識を生かした委員会主催の体力向上に取り組む。  
②体力テストの結果を共有、分析して課題を明確にし、日々の体育授業づくりや学校生活に生かす。  
③学校の取組を自分の生活態度・生活習慣の形成に生かせるように、家庭や地域と連携して体力の向上、生活習慣の改善を図る。  
④学校生活全般を通して「食育」への意識を高める。

担当

体育部

教育課程

読解力の一層の育成をめざします。個に応じた指導を追究します。図書館活用を通して汎用的能力に着眼したカリキュラムを考えます。

①学びのプロセスを意識した児童によるPDCAサイクルの構築。  
②課題設定を重視した単元構想  
③学校図書館活用・学校司書との連携取組の各教科におけるカリキュラム化。  
④思考ツールを用いた収束型協働思考の確立。  
④教科・英語科と結びつけた「横浜の時間」の創造(英語教育CLILL)とカリキュラム化

担当

B部会

特別支援教育

「特別支援」から「個に応じた支援」へとさらに意識を高め、どの子どもにとってわかりやすい支援のあり方を検討していきます。区別・差別のない学校づくりをめざします。

①きめ細かく個の状況を捉え、専門機関やカウンセラーとの綿密な連携を図りながら個に応じた支援を行う。  
②個別支援学級に対する理解を促し、活躍の場を増やす。  
③自信をもって活動できるように「個に応じた支援」体制を強化し、どの子どもにとってわかりやすい学習、互いに尊重し合える学校づくりをさらにめざす。  
④保護者との連携を図り、理解と協力が得られるようにする。

担当

A部会

地域連携

学校運営協議会を基盤とした地域連携を図ります。子どもの地域参画意識を向上させます。地域と連携して、児童の安全見守りを強化します。

①「がっつ緑園」(地域でもがんばる)というスローガンを意識して子どもたちが地域と積極的にかかわるようにする。  
②子どもたちの「地域参画力」を向上するために、学習との関連を図り、地域との連携による単元開発を進める。  
③キッズクラブとのさらなる連携を図る。  
④学校運営協議会を軸として地域との協働ができる体制を整える。

担当

教務部

研修・研究

日々の授業改善への意識を高め、チームで楽しく研鑽を積んでいきます。すでに他校の研究発表会や研修に出向き研鑽を積みまます。

①毎時間の授業で常に改善を図っていくという共通理解のもと、よりよい授業をめざして研鑽を積む。  
②前年度の取組を積極的に活用し、改善を図ることで、研究の蓄積を図る。  
③学年内、ブロック内で日常的に授業を見合い、協働で指導案を作成することを通して知恵を出し合うようにする。  
④常に、特別支援教育の見地をもった学習・生活づくりに対する個の力量を高める。

担当

A, B部会

いじめへの対応

一人ひとりの心に寄り添い、子ども同士の関係の変化を読み取りながら、互いがよりよい関係を気づいていけるよう、教職員が一丸となって未然防止に取り組んでいきます。

①「いじめ防止基本方針」に則り、全教職員で「いじめはだれにでも起こりうる」意識を高めて未然防止に取り組む。  
②いじめアンケート、ypシート、子どもカウンセラー等の取組を継続し、実態把握に努める。  
③日常的に一人ひとりのよさを認め、自尊感情を高め、互いに思い合えるようにする。  
④学校全体として情報を共有し、保護者・児童がだれにでも相談できる体制を整える。

担当

A部会

人材育成・組織運営

小規模校の強みを共有し、それを生かした学校運営をしていきます。学年2名体制において、チームで対応という自覚をもって学校協力体制で取り組んでいきます。

①研究会参加等、積極的に取り組む。  
②小規模校における「創造的な学校運営」をく引き続き検討していく。  
④学年2名体制において、どちらも学年主任・チームで対応という自覚をもって級外と連携をとりながら取り組んでいく。  
⑤小規模校における「働き方改革」を模索していく。

担当